



東京学芸大学附属国際中等教育学校 令和7年度 第6回授業研究会のご案内（第2次）

深い学びに根ざした概念的理解の形成 —協働的に学ぶ生徒の姿と転移の萌芽—

各 位

令和7(2025)年12月吉日

東京学芸大学附属国際中等教育学校長 雨宮 真一

探究的な学びの姿勢は、日々の授業での小さな発見の積み重ねによって育まれます。この学びの姿勢が各教科で得た理解を相互に結びつけ、思考はより概念的・体系的へと発展していきます。こうした学びの転移が自然に生まれる環境を整え、一人ひとりが知識を自ら紡ぎ直し、互いの考えに触れ合って思考を広げ合う過程を丁寧に支えていきたい——学びが連續し、深化しながら確かな軌跡として形づくられていくその歩みを、皆さんとともに見届けるべく、ここにご案内申し上げます。

会場 東京学芸大学附属国際中等教育学校
後援 東京都教育委員会・練馬区教育委員会

1/23(金)

12:20~
17:50



お申込み

当日参加も可能ですが、資料準備の関係上、
Webサイトからの事前のお申込みにご協力ください

1/19

<https://forms.office.com/r/azKgAtiEAq>

17:00まで

※当日は名刺をご持参ください



参加費

1000円（練馬区教員・学生は500円）

※当日は受付にてお支払いください



Access

- 電車 西武池袋線「大泉学園駅」徒歩8分
- バス 西武バス・関東バス「学芸大附属前」
駐車スペースがありませんので、
お車でのご来校はご遠慮ください

Contact

東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究部

〒178-0063 東京都練馬区東大泉5-22-1

☎ 03-5905-1326 FAX 03-5905-0317

✉ kenkyu@tguiss.jp

<https://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp/>



SSH
Super Science High school

unesco
Member of
the Associated Schools
Network

当日 スケジュール

12:20~13:10	13:20~14:10	14:30~15:20	15:40~17:00	17:10~17:50
受付 生徒ポスター発表	公開授業①	公開授業②	研究協議会	SSH 情報交換会

国際教養

生徒 ポスター 発表

生徒が学校行事の委員会活動を通じて、IBのATLにある協働スキル——意見のすり合わせ、対立の解消、効果的な話し合い、役割分担、リーダーシップなどをどのように發揮し成長してきたのかを紹介するポスター発表です。1年生から6年生まで複数名の生徒が参加し、活動のプロセスと学びをわかりやすくお伝えします。

公開授業・協議会

公開授業①

外国語

授業テーマ 視点と価値を踏まえたアイデア創出と評価活動

<授業者> Nappi Pierluigi

1年生 (中1) LE

授業の概要

日用品の新しい用途を水平思考で創造し、ループリックで評価し合う活動を通して、「価値判断は視点や基準によって変わる」という問いについての考えを深める。

理科

授業テーマ 因果関係を判断するための条件制御を促す取り組み

<授業者> 福之上 嘉刀
<協議会 助言者> 川上 真哉 准教授
(帝京大学大学院 教職研究科)

1年生 (中1) 理科

授業の概要

複数の要素が相互作用して生じるシステムを理解するには、どの要素が結果に影響するのかという因果関係の分析が不可欠である。本授業では、条件を制御し、着目する因果関係だけを取り出すという概念的理解を目指す。

保健 体育

授業テーマ ラケット型スポーツにおける概念的理形成を目指した「テニピン」の授業実践

<授業者> 白波瀬 勇太
<協議会 助言者> 今井 茂樹 准教授
(山梨学院短期大学 保育科)

3年生 (中3) 保健体育 (体育分野)

授業の概要

テニピンを通してラケット型スポーツに共通する考え方方に気づき、学び合いながら応用へと視野を広げる授業である。誰もが参加しやすい学習材としての魅力を提案する。

探究

授業テーマ 探究等におけるデータに対する捉え方、分析力を養う

<授業者> 伊東 さや香 ほか

4年生 (高1) 総探

授業の概要

5年から始まる探究活動を前に、データに対するマインドを育てる。これまでに行った「データの見方」、「データの視覚化」の授業に続き、「データの捉え方」として探究を通して得られた「差」について考える。

DP

授業テーマ DP生徒が教科間で生成していく概念理解

<授業者 (文学) > 高松 美紀

5年生 (高2) 文学

授業の概要

文学はどのように戦争や災害、政治的弾圧などの集団的記憶を表象するのか、表象不能な記憶をどのように扱うのか、ハン・ガン『少年が来る』を素材に、文学で表象することの特徴と意味について考える。

SSH 情報交換会

「IBの教育原理を活かした文理融合教育による、科学的コンピテンシーを備えた“Agents of Change”の育成」をテーマに、SSH 第Ⅲ期の取り組みを共有します。生徒ポスター発表での探究活動の発表、SS科目、探究の公開授業もぜひご参加ください。

公開授業②

国語

授業テーマ 「つながり」をテーマとした伝統的な言語文化の授業

<授業者> 小川 一美
<協議会 助言者> 高山 実佐 教授
(國學院大學 文学部 日本文学科)

2年生 (中2) 国語

授業テーマ モデルの妥当性を主体的に・批判的に捉えようとする生徒の育成

<授業者> 高橋 広明
<協議会 助言者> 伏屋 広隆 教授
(青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科)

5年生 (高2) 数学B

授業テーマ 深い学びに根差した地理歴史科・公民科における概念的理形成

<授業者> 中村 文宣

4年生 (高1) 地理総合

授業の概要

地歴公民科において、生徒はいかにして協働的な学びを通じて概念的理形成していくのか、そのプロセスを探っていく。今回は地理総合において、地域の「変化」を考える新旧地形図の比較を軸とした授業実践を行う。

技術

3年生 (中3) 技術

授業テーマ 協働的な学びによる現代的課題へのアプローチ

<授業者> 馬田 大輔

5年生 (高2) TOK

授業の概要

知識の領域 (Area of Knowledge) の「人間科学」に関する問い合わせ、どのようにUNPACKしていくのか。そのプロセスを提示し、参観者の皆さんと共に考えたい。

<授業者 (TOK) > 久保 達郎、鮫島 朋美、浅井 悅代